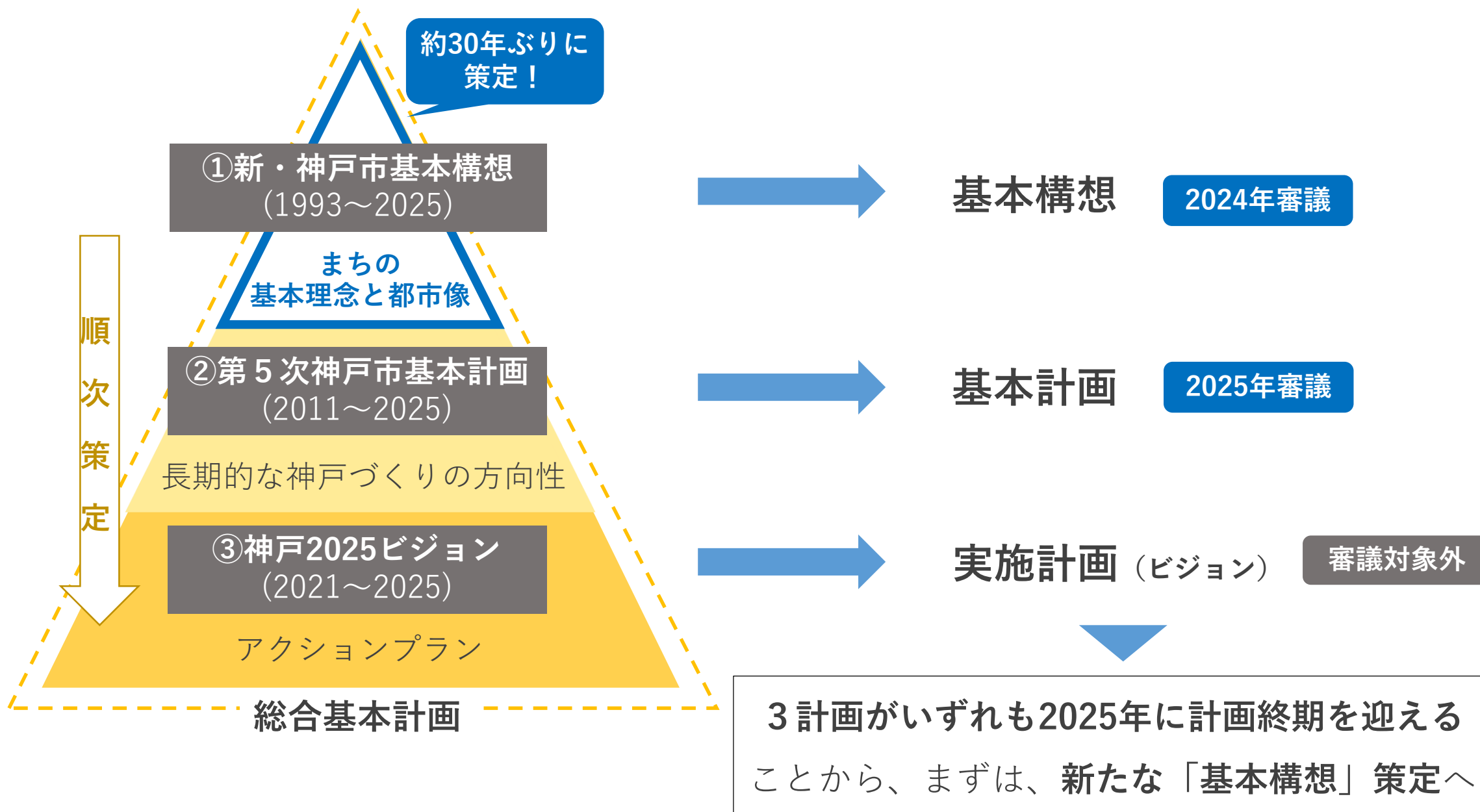


次期・基本構想について

- | | |
|-------------------|-------|
| 1. 総合基本計画の概要 | 2～9 |
| 2. 現・基本構想 | 10～12 |
| 3. 次期・総合基本計画策定の方針 | 13～16 |
| 4. 次期・基本構想 | 17～27 |

1. 総合基本計画の概要

総合基本計画とは



総合基本計画の法的な位置づけ

●地方自治法改正（2011年8月）

基本構想策定の**義務付けが廃止**。同法第96条第2項に基づき、本市含む多くの都市がその自主的な判断により、**条例上で基本構想を議決事項**として規定。

【地方自治法第2条第4項（改正前）】

市町村は、その事務を処理するにあたっては、議会の議決を経てその地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための**基本構想を定め**、これに即して行うようにしなければならない。

策定要領（S44.9自治省通知）

基本構想は、当該市町村の存立している**地域社会についての現状の認識および将来への見通しを基礎として、その地域の振興発展の将来図およびこれを達成するために必要な施策の大綱を定めるもの**であること



【地方自治法第96条】

普通地方公共団体の議会は、次に掲げる事件を議決しなければならない。

～略～

2 前項に定めるものを除くほか、**普通地方公共団体は、条例で普通地方公共団体に関する事件につき議会の議決すべきものを定めることができる。**

つながりと情熱と技術で、

「一歩先の価値観」を実現する

グローバル挑戦都市・北九州市

ひとの数だけ、スポットライトがある。

だれもが主人公になって、イキイキと

自分の人生をもっと好きになって進んでいく。

一人ひとりに宿る力を、

もっと支え、挑戦を後押しできる都市へ。

積み重ねてきた歴史を、

脈々と継承し、新しい価値を生みだせる未来へ。

多様な個性がまざりあい、つながりあうからこそ

生みだされる価値は、日本のみならず世界へと大きく広がり、

だれもが豊かで安らげる未来をつくっていきます。

つながりと情熱と技術で、

「一歩先の価値観」を実現するグローバル挑戦都市へ。

さあ、愛さずにはいられない未来を、北九州市から。

第1章 北九州市の挑戦

1 北九州市の歩みと個性

2 北九州市が考える「一歩先の価値観」

第2章 目指す都市像の実現に向けた3つの重点戦略

1 3つの重点戦略による「成長と幸福の好循環」

2 3つの重点戦略

(1)「稼げるまち」の実現

(2)「彩りあるまち」の実現

(3)「安らぐまち」の実現

第1章 北九州市の挑戦

1 北九州市の歩みと個性

(1) 五市合併前

本州と九州各地との結節点という地理的な特性から、江戸時代には、城下町の小倉をはじめ、大里、黒崎、木屋瀬などが宿場町として栄えるなど、北九州地域は、古くから発展を遂げてきました。

大きな転換点となったのは、日本の産業の近代化の礎となった官営八幡製鐵所の操業でした。筑豊の石炭に加えて、アジアに近く、災害リスクの低い強靱な土地や、豊富な水源を有していること、そして何より次世代の産業を創るという地元人の情熱が、明治政府の一大プロジェクトの立地の決め手となりました。

静岡市は、「『世界に輝く静岡』の実現」を目指します。

静岡市は、静岡県ほぼ中央に位置し、北には標高3,000メートル級の南アルプスの壮大な山々が連なり、南には水深2,500メートルの日本一深い駿河湾が広がる、類い稀な自然を有しています。一年を通じた温暖な気候と豊富な日照時間がもたらす暮らしやすい生活環境のもと、長い歴史の中で独自の文化が培われてきました。

この地に暮らす人の営みは、太古から脈々と受け継がれ、登呂遺跡などで稲作文化が発展した弥生時代、今川文化が花開いた室町・戦国時代を経て、江戸時代の初期には、駿府城を居城とする徳川家康公による大御所政治が行われました。さらに、東西交通の要衝である東海道二軒六宿は、多くの旅人が行き交い、今も当時の面影を残しています。こうした歴史と地勢的な利点から、多様な人々が交流し、多彩な産業が育まれてきました。

そして今日、城下町として栄えてきた静岡部心、国際拠点港湾の清水港を擁する港町の清水部心、合併により市境が取り払われた新部心である草薙・東静岡副部心の3極が核となり、高度な都市機能を備えた静岡県中部地域の中核都市として発展を遂げています。このように静岡市は、生活に豊かな恵みを与える中山間地域をはじめとした自然環境、利便性の高い部心部、さらには固有の歴史、文化、産業など、世界中の魅力ある都市にも決して引けを取らない、数多くの貴重な地域資源を有しています。

これらの強みを活かして、人口や産業が過度に集積し時間の流れが急速に進む大都市ではなく、一定の経済力を有しながら、経済、社会、環境が調和した、世界の中で存在感を示す都市を目指していくため、「世界に輝く静岡」の実現を掲げることとします。

まちづくりの目標

「世界に輝く静岡」の実現



「世界に輝く静岡」とは

「世界に輝く静岡」とは、次の2つの要件を兼ね備えたまちと定義します。

市民(ひと)が輝く

静岡市に暮らす市民一人ひとりが、輝いて、自分らしい人生を謳歌できるまちであること

“輝くまち”と聞いて、どのようなまちの姿を思い浮かべるでしょうか？

市民が毎日健やかに暮らし、やりがいや充実感を持って働いている、街中がいつも多くの人で賑わっている、休日に楽しめるスポットがある……。人それぞれのイメージがあると思います。

ただ、いずれの場面でも、そのまちで暮らす市民一人ひとりが、自分らしく輝いて、人生を謳歌している、その姿は共通しているのではないのでしょうか。

個々の市民が未来に希望を持ち、いつまでも暮らし続けたい、まちづくりに関わっていききたいと感じる、それが、いつの時代も世界に輝くまちの第一条件なのです。

都市(まち)が輝く

静岡市が擁する地域資源を磨き、輝かせ、世界から注目され、人々が集まるまちであること

“世界に輝く”、そのためには「市民(ひと)が輝いている」だけでよいのでしょうか？

個々の市民が輝いていたとしても、そのまちが多くの人を惹きつける魅力を有していなければ、やがて活気や賑わいは失われてしまうでしょう。

そしてまちの魅力とは、他の都市の真似をするのではなく、もともと持ち合わせている固有の地域資源をより磨き上げ、輝かせることで、向上していくのではないのでしょうか。

都市全体が常に活力にあふれ、住む人が誇りを持ち、訪れる人や関わる人が愛着を感じる、それが、世界から注目され、誰もが憧れる輝くまちなのです。



まちづくりの目標の実現に向けて

まちづくりの目標を実現するために、この基本構想に則した基本計画を策定し、政策・施策を円滑かつ着実に推進していきます。

市の未来像

変化を力に 進むまち。 横須賀市



温暖な気候と半島特有の海やみどりなどの自然環境。

開国期を彩り近代文明の礎を築いた歴史。

地域の風土に根づいた文化。

多くの外国人の居住や、外国人との交流が生み出す国際的な雰囲気。

集積する、先端的な研究開発機関。

横須賀には「国際海の手文化都市」として育んできた

まちの魅力があります。

しかし、急速に進む人口減少、少子高齢化。

さまざまな分野でのテクノロジーの劇的な進歩。

地球規模での気候変動。

また、新型コロナウイルスの流行により求められる新たな社会システムへの転換。

このような社会情勢の中では、これまでのまちづくりの姿勢を踏まえながらも、

私たちは、心と知恵と力を合わせ、この変化を受け入れ、立ち向かう必要があります。

変化には不安が付きまとうもので、一歩を踏み出すには勇気が必要です。

横須賀に根づく、人と人との絆、助け合い、人情。

そして自他区別のない思いやりや慈しみの心。

この「誰も一人にさせない」という変わらぬ精神こそ、

変化への不安を和らげ、人々が一歩を踏み出す勇気になり、

そして最後には変化の荒波を乗り越え、その先へ進む原動力になると考えています。

すべての“ひと”が自分らしく輝けるまちへ。

人も自然も共生する“まち”へ。

「やりがい」と「やりたい」から“しごと”が生みだされるまちへ。

「自分ごと」の意識が未来の“環境”を守るまちへ。

今あるまちの魅力に改めて目を向け、そして変化を追い風にして、

2030年、希望ある豊かな横須賀を目指し進んでいきます。

ちがいを ちからに 変える街。渋谷区

渋谷は世界を変える。
いや、「渋谷が」世界を変える。
本気でそう信じてみよう。

この街に存在する
ありとあらゆる人間を、仕事を、価値観を、
ドラマを、チャンス、祝福しよう。
それらがさまざまであることを、
それゆえに生まれる熱を、愛そう。

ちがっている、ということは、かけがえない。
それは未来を動かす力になる。

それぞれの成長を、一生よろこべる街へ。
あらゆる人が、自分らしく生きられる街へ。
思わず身体を動かしたくなる街へ。
人のつながりと意識が未来を守る街へ。
愛せる場所と仲間を、誰もがもてる街へ。
あらたな文化を生みつづける街へ。
ビジネスの冒険に満ちた街へ。

街にかかわる人がひとり残らず、
自分の人生を謳歌できる。
そんな渋谷区を、あなたといっしょにつくりたい。
混ざり合って生まれる価値こそが
それを可能にするのだと、この街で証明してゆこう。

5 分野別基本構想

A 子育て・教育・生涯学習

それぞれの成長を、一生よろこべる街へ。

あらゆる人は、「育つ人」であると同時に「育てる人」になり得ます。人生のどんなステージにおいても、です。

人種・性別・年齢・障害の有無を問わずすべての人が一生を通じて、育つことと育てること、教わることと教えること、そのそれぞれに喜びを感じられるように。渋谷区は、ダイバーシティ&インクルージョン教育の先進都市を目指します。

■ 子どもはつまり、未来です。

この街で子どもを産みたい、育てたい。そう思えるほどの安心と喜びを約束します。出産前から、子どもが成長した後に至るまで、子育てを切れ目なく支援する街になりたい。

また、子どもたちのなかに眠っている多様な可能性は、社会の希望そのもの。その可能性を最大限に引き出すために、乳幼児の時期からの先進的教育を追究していきます。

育児も教育も、この国の未来を育てることにほかならないのです。

■ この世界は、学びであふれています。

さまざまな彩りに満ちたこの世界を、そして人間の多様性を、誰もが学び愛せるように。学校でも学校以外でも、多彩な人材を教育に巻き込む機会と仕組みをつくっていきます。できるだけさまざまな人に、教えるチャンスと教わるチャンスの両方を提供してゆくこと。これは、生涯学習をより多様で豊かにしてゆく考え方でもあります。

これまでの策定経緯

	1965年～ (S40)	1974年～ (S49)	1986年～ (S61)	1993年～ (H5)	2011年～ (H23)	2016年～ (H28)	2021年～ (R3)	次期総合基本計画 (予定)
基本構想		人間都市神戸の基本構想 1974年(S49)策定		新・神戸市基本構想 1993年(H5)策定				神戸市基本構想 2024年(R6)策定
基本計画	<第1次> 神戸市総合基本 計画 1965年(S40)策定	<第2次> 人間都市神戸の 基本計画 1976年(S51)策定	<第3次> 人間都市神戸の 基本計画(改定) 1986年(S61)策定	<第4次> 第4次神戸市 基本計画 1995年(H7)策定 区別計画 1996年(H8)策定	<第5次> 第5次神戸市基本計画 2011年(H23)策定 神戸づくりの指針			<第6次> 第6次神戸市 基本計画 2025年(R7)策定
実施計画 (ビジョン) ※1992年以前 は中期計画	神戸市生活環境基準 新・神戸市生活環境基準 第3次神戸市生活環境基準 神戸市都市環境基準 新・都市環境基準			神戸2010 ビジョン 2005年(H17)策定	神戸2015 ビジョン 2011年(H23)策定	神戸2020 ビジョン 2016年(H28)策定	神戸2025 ビジョン 2021年(R3)策定	神戸2030 ビジョン 2025年(R7)策定
				区中期計画 2005年(H17)策定	各区計画 ※2020年度まで			

2. 現・基本構想

名称	新・神戸市基本構想
位置づけ	本市の最上位計画
計画期間	1993～2025年
基本理念	世界とふれあう市民創造都市
都市像	<ol style="list-style-type: none"> 1. とともに築く人間尊重のまち 2. 福祉の心が通う生活充実のまち 3. 魅力が息づく快適環境のまち 4. 国際性にあふれる文化交流のまち 5. 次代を支える経済躍動のまち
構成	都市像ごとにまちづくりの方向性を記載
ボリューム	全15ページ

1 新・神戸市基本構想

[平成5年9月20日議決]

はじめに

緑なす六甲の山々と陽光に輝く青い海。起伏のある変化に富んだ地形。この恵まれた自然の中で、神戸は古く日宋貿易の時代からアジアへの窓口の役割を果たしてきた。

1868年（慶応3年）の兵庫開港を契機に、広く世界との交流を始め、先人たちの英知と努力により、産業を興し、都市の骨格を築き、生活文化を培ってきた。その結果、開放的で進取の気風にあふれ、大都市の魅力と暮らしやすさがほどよく調和した今日の神戸をつくり出している。

しかし一方では、超高齢化・国際化・情報化の進展、価値観や生活様式が多様化、地球環境問題の顕在化、都市周辺部の活力低下を示すインナーシティ現象の発生など、神戸を取り巻く内外の状況は大きく変化しつつある。

また、経済全体の豊かさには比べ、個人にその実感が伴わないことから、都市生活の基礎的条件を確保し、さらに“生活の質”をより重視した真に豊かな暮らしの実現が求められている。

将来への夢と展望を持ち、様々な課題を克服しながら、持続可能な成長を図り、より良い神戸を築き、次世代に引き継いでいく。これは、脈々と続く歴史の流れの中で、現在に生きる私たちの責務である。

神戸は、今、新しい時代に向けて、市民の主体的な参加により、都市のにぎわいとやすらぎが調和した魅力あふれる「アーバンリゾート都市づくり」を進めている。

この新たなまちづくりを機に、私たちは神戸の未来を拓いていくための基本的な指針として、ここに「新・神戸市基本構想」を定める。

世界とふれあう市民創造都市

憲法の基本的人権が実質的に保障され、市民一人ひとりが個性や能力を十分に発揮し、温かいふれあいと支え合いの中で多様な暮らしを選択、創造できる神戸を実現していくことが、都市づくりの基本である。

そのためには、市民の豊かで安定した暮らしを支える基盤として、人・物・情報の交流を生かしながら、人材を育て、新たな文化や産業を創造し、国内はもとより世界に向けて発信する神戸でなければならない。また、歴史の中で培われてきた国際性を生かし、世界の人々や都市との交流・協力を繰り広げ、世界の恒久平和や調和ある発展と、環境保全に地域から貢献していくことも必要である。

言うまでもなく、このような都市づくりは、真の地方自治の確立のもとに、市民の高い自覚と主体的な取り組みによってのみ推進しうるものである。

そこで、私たちは、地球社会において、人間性豊かな“市民の暮らし”とその基盤となる“都市の魅力と活力”を、市民が主体となって創造していく

「世界とふれあう市民創造都市」

を、2025年に向けた、神戸の都市づくりの基本理念とする。

この基本理念の実現にあたっては、

- 「ともに築く人間尊重のまち」
- 「福祉の心が通う生活充実のまち」
- 「魅力が息づく快適環境のまち」
- 「国際性にあふれる文化交流のまち」
- 「次代を支える経済躍動のまち」

の5つの都市像を掲げ、相互の連携を図りつつ、総合的にまちづくりを進めていく。

現・基本構想 振り返り

2023年11月に、外部有識者により、現・基本構想から引き続き大切にすべき考え方や次期・基本構想の構成等について議論をしていただいた。

区分	項目	意見の内容
① 引き続き大切にすべき観点	持続可能な成長	持続可能な成長といった価値観は今でも重要。神戸市で活動していると、まちの長所として持続可能な発展の視点が根付いていると感じる。
	国際性	多様な文化を育んできた歴史的経緯のある国際都市であることは強み。
	神戸空港	現・基本構想の「海・空・陸の広域交流拠点をつくる」という表現は、神戸空港の国際化によりますます重要な要素になる。
② 新たに追加すべき観点	災害からの教訓	阪神淡路大震災やコロナ禍の教訓も大切な要素として残したい。
	挑戦	神戸市は昔から誰でも受け入れるという素地がある。失敗に寛容で、誰もが挑戦でき、イノベーションを起こせる街として打ち出せれば、若者が集まって色々な取り組みが生まれるのではないか。
	互助	社会的弱者への支援について、新しい取り組みが行政以外から沢山生まれている。人と人がしっかり支え合って社会が創られているという打ち出しができるとう良い。
③ 基本構想の構成	ボリューム	わかりやすさや伝わりやすさが重要。簡潔でボリュームは落とすべき。
	引き継ぐ要素	引き続き大切にすべき観点は、時代に即して再定義する、時代に合ったわかりやすい表現にするという視点も重要。

3. 次期・総合基本計画策定の方針

策定方針

全国的な計画策定の簡素化・集約化の流れの中、各計画の意義を端的かつ明確に示していくとともに、**計画策定自体を市民の市政参画への機運醸成を高める契機**としながら、次期総合基本計画の策定を進めていく。

市民の参画

市民参画を最も重要なプロセスと捉え、デジタル技術も活用しながら、**様々な場面で情報発信や参画機会の創出に取り組み、多くの意見や提案を収集。**

⇒ホームページや SNS 等で、将来を担う若年層を中心に広く発信し、アンケートやワークショップを実施

⇒経済界や学識経験者等へのインタビュー（2024年の基本計画検討時に実施予定）

次期・総合基本計画 策定方針②

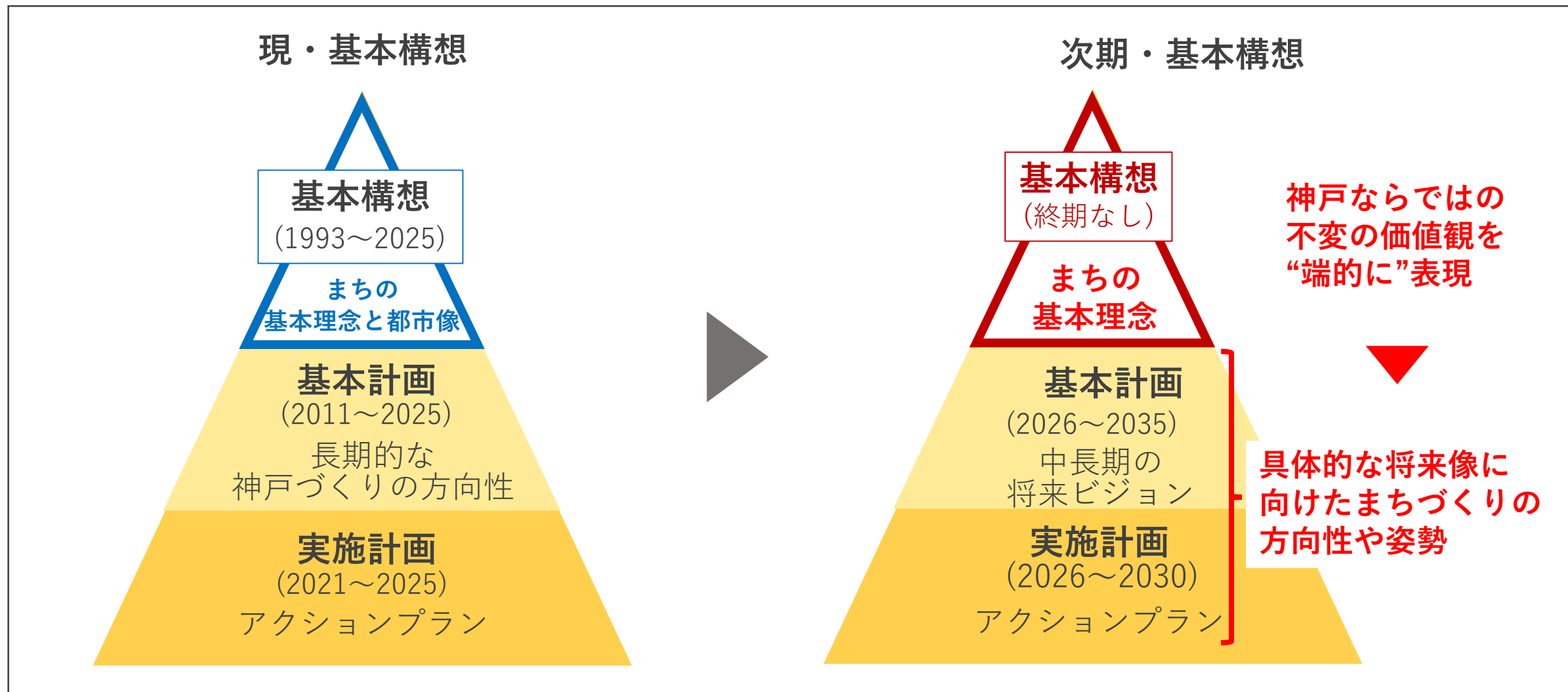
R5.6.12 神戸市議会（総務財政委員会）への報告資料

各計画の意義

計画	意義	計画終期
基本構想	激化する都市間競争や社会変容の中、先人たちから引き継ぎ、将来につむいでいくべき神戸のまちの魅力や価値観等の基本理念を端的なメッセージで示し、広く発信することにより、他都市との差別化とともにシビックプライドの醸成やシティプロモーションにつなげていく。	33年 ⇒ 終期なし
基本計画	加速する人口減少や激変する社会経済情勢に伴い、多様化・複雑化する社会課題に対応しながら、進化する神戸の中長期のまちの将来像や方向性、具体的な施策・目標等を定める。特に、今後の神戸空港の国際化をふまえた新たな国際	15年 ⇒ 10年
実施計画 (ビジョン)	都市としての未来等を示し、多様な主体の参画を得ながら、神戸の持続可能なまちづくりを推進していく	5年（変更なし）

次期・基本構想（素案）の役割

計画間の重複を無くし、位置づけの明確化を。



4. 次期・基本構想

アンケート **約 25,000 名**

第1弾 みなさんの思う神戸の魅力 16,433名

第2弾 第1弾の結果を踏まえた深掘り 8,553名

エリア別ワークショップ **約 250 名**

市内10地区の特徴的なスポット、東京、オンライン

はじめての市政参画 **約 35,000 名**

市立の小中学校などの4年生以上対象
ワクワクする「変わりゆく神戸」も紹介

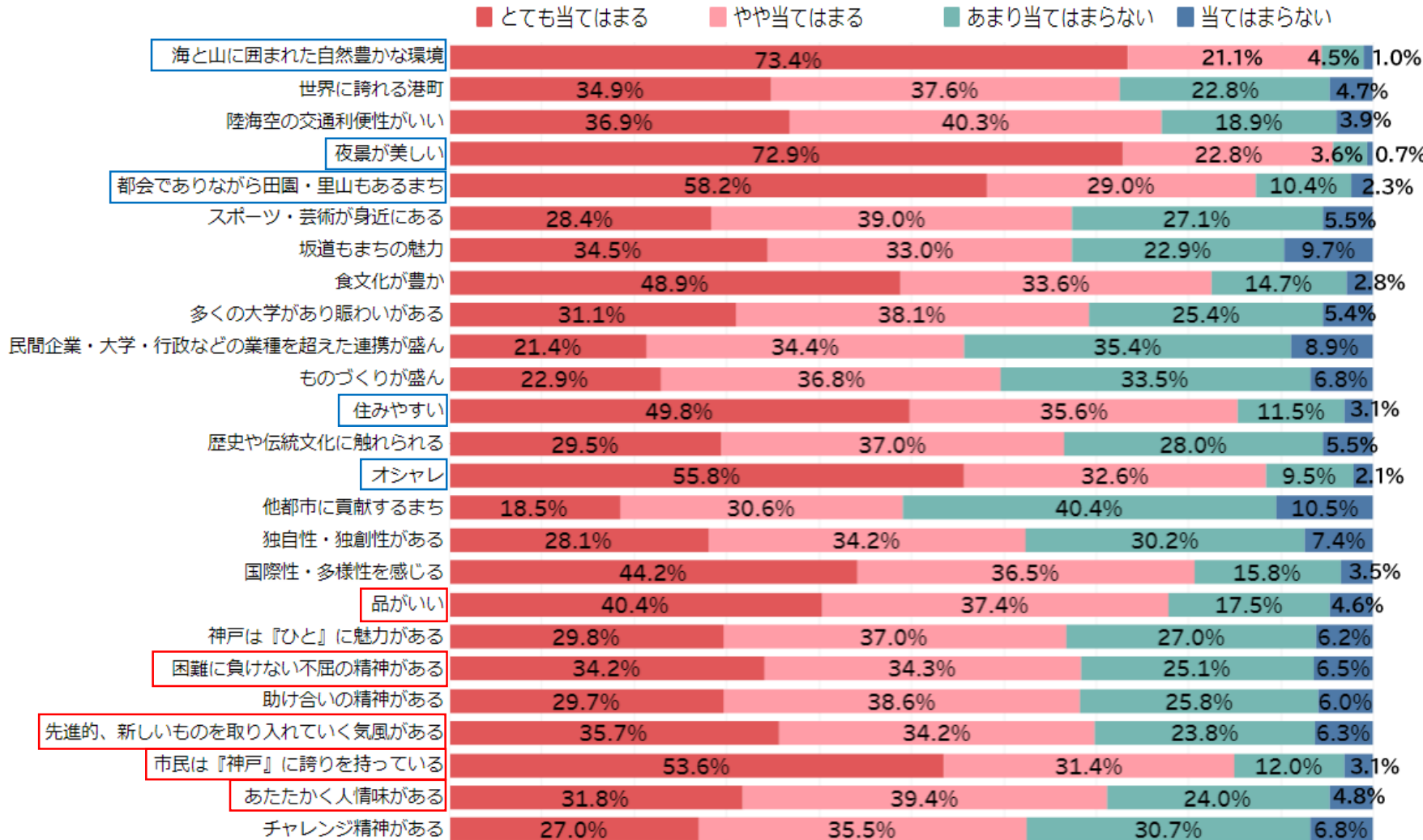


ワークショップの様子



アンケート選択式25項目の結果

あなたが思う『神戸といえば○○やんなあ』や『神戸のひとって○○なとこ、ある』を教えてください



まちの魅力 TOP 5

- ・ 夜景が美しい
- ・ 海と山に囲まれた自然豊かな環境
- ・ オシャレ
- ・ 都会でありながら田園・里山もあるまち
- ・ 住みやすい

ひとの魅力 TOP 5

- ・ 市民は『神戸』に誇りを持っている
- ・ 品がいい
- ・ あたたかく人情味がある
- ・ 先進的、新しいものを取り入れていく気風がある
- ・ 困難に負けない不屈の精神がある

【海・山】

海風が通りに抜け山の木々の音が居心地の良い街 (30代・西区)
海と山がとても近くて綺麗。船の汽笛の音。(40代・中央区)
海と山が近いので週末日帰り旅行のバリエーションが多い(40代・東灘区)
山と海が身近にある。山にはいけば、クワガタもいるし、海で泳げば、足元に魚がいる。それだけでも充分神戸が好き。(60代・垂水区)
海と山どちらの気候も楽しめ、街にも人にも港町らしい風通しのよさがある。(30代・中央区)
神戸港があり、文化の発祥だったり、スポーツの発祥だったりする点。(50代・北区)
海と山が近く、特に夏場は自宅からいつでも海にも山にも行けるという、環境が普通にあります。(70代・西区)
ポートアイランドで結婚式を挙げましたが、やはり海と山が一体的な景色は本当に美しく唯一無二 (20代・兵庫区)
神戸市でどこ行こうかなと考えたときに山と海が同時に浮かぶ珍しい市 (20代・須磨区)
私は3年前に大阪から神戸に引っ越したのですが、垂水区在住で毎日海と橋が見ることが出来ます。毎朝その景色を見るのが私の癒しとなっています。大阪には無い景色でとても好きです。(20代・垂水区)
六甲山と須磨海岸両方とも、よく行っている。神戸の中心地からアクセスがよいので行きやすい。(20代・垂水区)
海と山が近くて、散歩感覚で山に行ける。東京だと「旅行」感覚。(北神地区WS)
海と山を1日で往来できるのは神戸の良さ (灘区WS)
海と山があって、坂があるところが多くて、桜並木の時期はすごく綺麗(中央区WS)

【夜景・街並み・景観】

摩耶山の夜景はどこの場所よりも輝いていて自慢できます！(30代・垂水区)
六甲山の夜景は女性のハートをつかみやすい(40代・兵庫区)
海も山も夜景も綺麗な元祖オシャレ都市(30代・北区)
光り煌めく街 神戸(50代・東灘区)
世界中の人が観たくて旅行にやってくる百万ドルの夜景がある(40代・須磨区)
山に登れば自然がいっぱいで夜になると夜景がキレイ。海の香りとオシャレな町並み。(～10代・東灘区)
海も山も見える。街並みがキレイ。(30代・市外)
おしゃれな街並みとお店がとても魅力的(30代・垂水区)
多様な文化、すてきな街並み(20代・灘区)
綺麗な街並みを誇りに思う(30代・東灘区)
都会と田舎のバランスがちょうどよく、先人たちが残した街並みや夜景は他の都市にはない自慢です。(50代・灘区)
旦那と付き合いだての時に初めて遠出した場所で景色が綺麗だと連れて行ってもらいました。星が好きなのも覚えていてくれて神戸の3大夜景のひとつだよと言われとても綺麗なことを覚えています(20代・須磨区)
高校が山の上であり、毎日学校に残って勉強していた時に外を見ると、神戸の夜景が見えていた(20代・市外)
横浜市民でありながら、神戸港の夜景に感度した。横浜港にはない美しさ。(20代・市外)
御影の上の方に引越しました。夜に帰宅して夜景を見るとその日一日起きた大変な事も忘れちゃうくらい綺麗で見惚れてしまいます。六甲ぶしが吹いて寒いし、早朝や深夜のバス便がなくて困りますが、夜景を見て引越してきてよかったと毎回思います。(20代・東灘区)

寄せられた主な意見

“まち”の魅力

- ・海、山等の豊かな自然が多い
- ・自然の豊かさと都市の賑やかさのバランスが良い
- ・人工的ではなく本物の自然が身近にある
- ・異国文化と融合した街並みや「みなと」の風景
- ・開港以来、外国人を受け入れてきた多様性
- ・震災の教訓を次代に継承している
- ・住みやすい、交通の便が良い、身近で色々と楽しめる

“ひと”の魅力

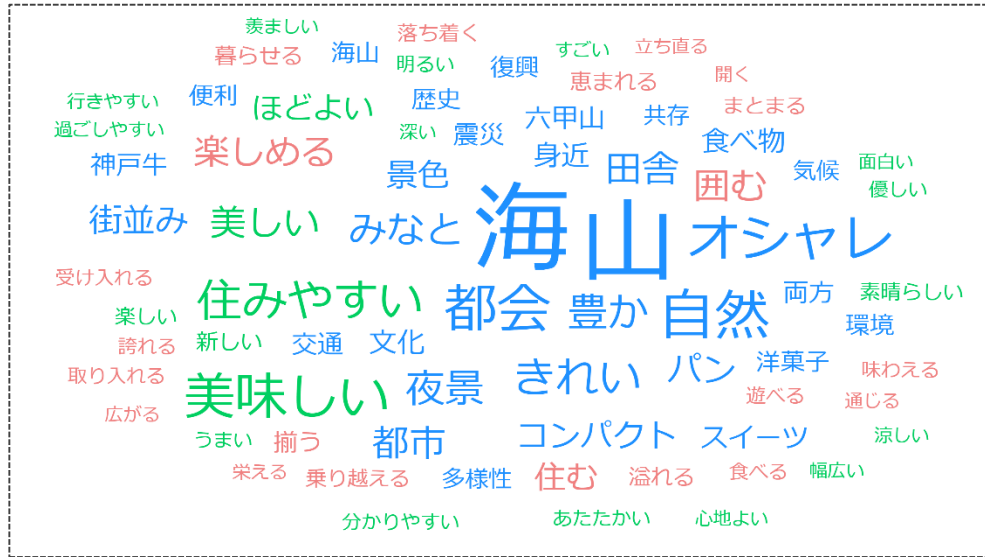
- ・まちに誇りを持つ人が多い
- ・神戸愛が強く、自分たちの街を大切にしている
- ・優しい、親切、フレンドリー、下町の人情味がある
- ・多様性に寛容
- ・県外から来た人も受け入れる
- ・震災を乗り越えた強さと助け合いの精神がある
- ・どんな困難でも諦めない
- ・笑顔で挨拶してくれる、個性的で元気な人が多い

“未来の神戸”

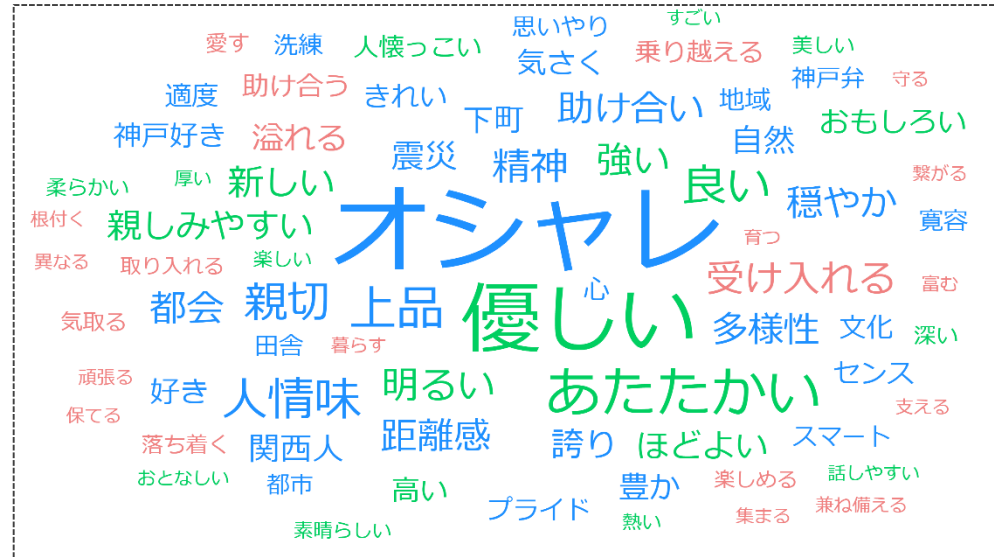
- ・子ども、若者、高齢者等の全世代に優しく、住みやすい
- ・海・山や「みなと」より生まれた旧居留地などの多様な文化が共存する街並みを残す
- ・世界中から若者が集まり、失敗を恐れずチャレンジできる
- ・多様な文化交流ができる
- ・神戸空港の国際化や三宮の再整備によるまちの活性化
- ・神戸に住み続けられる仕事・職場環境の改善

収集した意見のワードクラウド (テキストマイニング)

○神戸の自慢できること

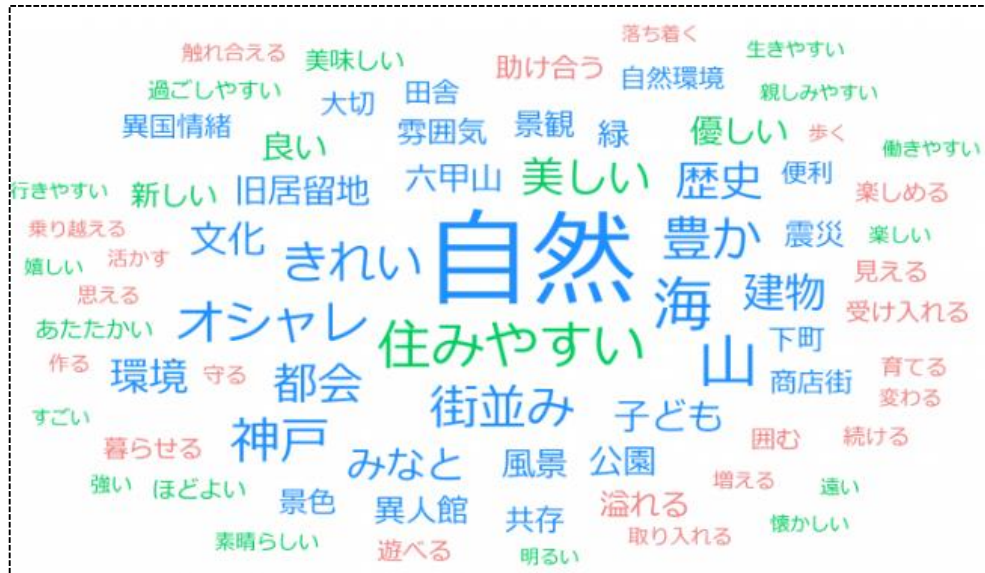


○神戸のひとの魅力

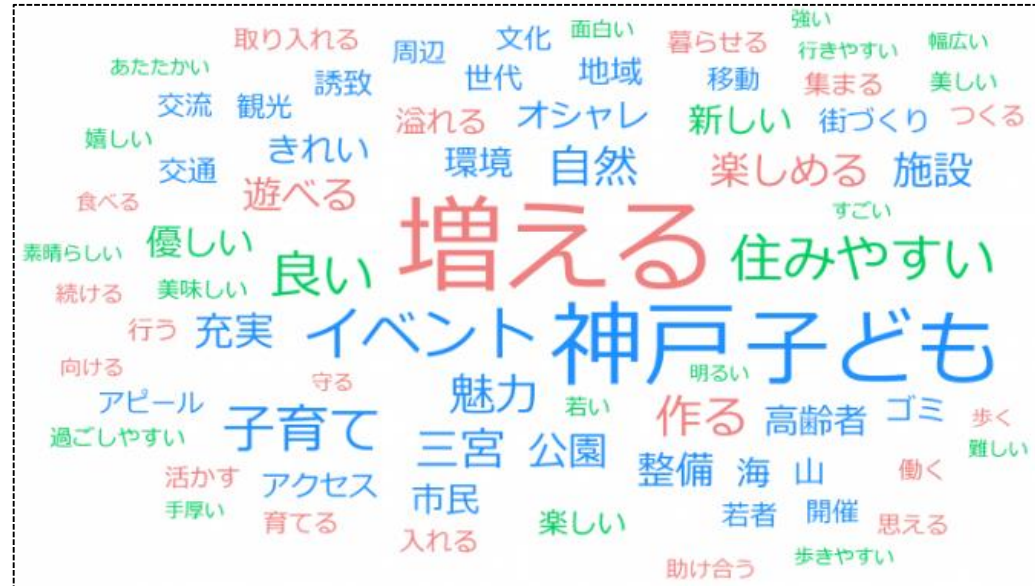


【凡例】
 名詞
 動詞
 形容詞

○未来の神戸に残していきたいこと



○未来の神戸でこうしたらもっとワクワクすること



2023年度に収集した様々な意見を

テキストマイニングも活用しながら集計・分析



「基本構想（素案）」として“端的なメッセージ”で取りまとめ

①先人から紡いできた神戸ならではの「**まちやひとの魅力**」（前段）

②これらを活かしながら目指していく「**未来のまちにむけた方向性**」（後段）

未来のまちにむけた方向性

誰もがひとに寄り添い、助け合いながら
それぞれの夢を実現できるまちへ
豊かな自然とひとの営みが織りなす
ゆとりある暮らしができるまちへ

世界を臨む海や空からひとが集い
新たな価値の創造に挑戦し続けるまちへ
まちの歩みとテクノロジーの融合により
グローバルに貢献するまちへ

神戸は、いつまでもまちの“誇り”を育み
次代に紡いでいきます

⑦誇りを
育むまち

⑥世界に発信・
貢献するまち

⑤豊かな生活
ができるまち

④“今”から
“未来”へ

神戸のまちやひとの魅力

神戸は、海と山に囲まれた
美しい“みなとまち”です
開港以来、海外との交流を重ね
文化や流行を日本に生みだしてきました

神戸は、“多彩な表情を見せるまち”です
都会と里山の共存
洗練されたまち並みと下町の活気
まちに溶け込む坂道も
毎日違う風景を見せてくれます

神戸は、人間らしい
“あたたかみのあるまち”です
幾度となく困難を乗り越えた絆
多様性を認める明るい気風
いつでも神戸は
すべてのひとをやさしく受け入れます

これまで神戸には多くのものが
受け継がれてきました
これからも神戸は
世代や立場を超えた繋がりの中で
未来に向けて進んでいきます

③“今”の”ひと”
の魅力

②“今”の”まち”
の魅力

①自然や歴史

2024年

4月19日（金）10時～12時 第1回審議会

素案の諮問、審議

6月6日（木）13時～15時 第2回審議会

第1回を踏まえた素案審議

7月 パブリックコメント

8月29日（木）13時～15時 第3回審議会

パブリックコメントを踏まえた審議、答申案の議論

9月 答申受け

12月 議決・策定

今後の予定

